

海外安全対策情報（ポルトガル・2021年1月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

（1）治安情勢等

ア 犯罪発生状況

当国における2019年の犯罪認知総件数は335,614件で、2018年より0.7%増加した。このうち、凶悪犯罪認知件数は14,398件で、2018年より3%増加した。なお、顕著に増加した犯罪はサイバー詐欺（+66.7%）で、認知件数が多い凶悪犯罪は、1位：路上強盗（5,923件）、2位：ひったくり強盗（3,018件）、3位：公務員に対する抵抗等（1,384件）となっている。

イ 刃物を使用した強盗事件の増加

令和2年1月から9月までに発生した犯罪に関し、都市部を中心に刃物を使用した犯罪が前年同期と比べ増加している。PSP（治安警察庁）リスボン首都圏本部によると、令和2年上半期、同本部管轄区域で発生した刃物使用による強盗事件は259件で、前年同期と比べ39件増加した。犯罪に使用された刃物は489本押収されており、前年より233本増加している。

ウ ネット詐欺の増加

コロナ禍におけるネット詐欺事件の増加に伴い、PJ（司法警察庁）は、ユーロポールと共同で注意喚起を行った。PJによると、詐欺事件の90%は、注意していれば防げたものだったと説明している。

エ PSP警察官に対する評価

ポルトガルの様々な統計を公表しているサイト Pordata.pt の調査によると、ポルトガル人の81%がPSP警察官に対して好印象を持っていることが明らかとなった。この割合はEU加盟国内では8番目に高い水準となっている。

（2）邦人被害

令和2年10～12月の間、大使館に届けられた邦人の当国での犯罪被害件数は0件であった。

2 報道による凶悪犯罪等の事例

- 10月20日午前10時半過ぎ、アルマダ市にある両替所にけん銃を持った男が押し入り、従業員にけん銃を突きつけ、現金25,000ユーロ等を奪って逃走した。
- 11月9日午後11時過ぎ、リスボン市内リベルダーデ通りにおいて、発砲事件が発生した。発砲による負傷者はなかったものの、通りに面した店舗の窓が破損する被害が発生した。

- 11月9日、今年2月から11月にかけて、リスボン市内カンポ・デ・オウリケ地区で高齢者を狙いキャッシュカードを盗んでいた外国籍の女3人が逮捕された。逮捕された3名は、ATMで現金を引き出す高齢者の近くで暗証番号を盗み見し、その後カードを窃取していた。少なくとも30件の窃盗を繰り返し、被害総額は23,000ユーロという。
- 12月7日午前10時半過ぎ、ポルト市内にある貴金属販売店に散弾銃を所持した覆面の4人組が押し入った。経営者が抵抗したため、犯人の一人が威嚇発砲し、貴金属を奪って逃走した。
- 12月9日、リスボン市内の住宅で、29歳の男性が、同居していた45歳の男に刃物で刺され死亡した。いずれも難民申請中の外国人で、一時滞在用の住宅で共同生活をしていた。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ポルトガルにおけるテロ関連動向は把握されなかった。

4 誘拐事件発生状況

特になし。

5 対日感情

良好。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、脅迫や何らかの事件に巻き込まれたという事案の発生は報告されていない。